

大学と連携した地区津波避難計画の作成（西予市）

【取組概要】

当市では、国及び愛媛県から発表された被害想定調査をもとに、南海トラフを震源とする巨大地震によるL2クラスの津波災害に備える為に、平成26年3月津波ハザードマップを改訂するとともに、アニメーションも作成し広く住民に津波防災啓発を行っている。

この取り組みと時を同じく、愛媛大学防災情報研究センター二神准教授の研究室では、津波避難シミュレーターの開発に取り組まれており、当市の津波襲来の時系列データとコラボして津波避難シミュレーターが完成した。

平成27年度から、沿岸部の自主防災組織を中心に同シミュレーターを活用したワークショップを実施し、早期の避難で命が助かることを、地域全体で共有し、地区の避難計画・防災計画の策定を目指す。

人口 40,796 人

担当部署 総務部危機管理課
事業実施期間 26年4月~28年3月
取組事例のURL



依津地区ワークショップの様子

【取組のポイント(特徴・先進性・特色など)】 【今後の構想や、他団体との連携の可能性】

これまでの、津波襲来をイメージした取り組みではなく、シミュレーションをとおして、視覚的にイメージがしやすく、危機感を持ったワークショップが開催できる。

交通障害箇所、要配慮者世帯の設定も可能であり、幅広く活用できる。

今後は、空き家情報や耐震情報なども追加して、さらに現実に則した内容にしていきたい。

大学との連携も密にし、学生にも実際に現地を訪問していただき、地元の方と津波避難について共に考える場を提供したい。